

大阪市立自然史博物館特別展「OCEAN! 海はモンスターでいっぱい」

出展:「ヒドラってどんな生き物？」開催報告

(平成 23 年 11 月 12 日、13 日)

当財団の科学人材育成事業では、理系大学院生を対象に奨学金の支給や社会体験と教育の支援を行っていますが、より若年層、たとえば最近理科離れが問題となっている小中学生に財団研究者の研究活動を基にした「科学の面白さ」を伝え、未来の科学人材育成と位置付けることも重要であると思われます。この度、大阪市立自然史博物館で開催中の特別展「OCEAN!海はモンスターでいっぱい」の主催者である読売新聞大阪本社から小中学生を対象とした展示の依頼を受けました。科学といっても、難しく考えたり、尻込みしたりする必要はないこと、生命の不思議に迫り、子供達に生命科学の夢を伝えることができればと思ひ、以下の内容で展示を実施しました。

ヒドラはクラゲの仲間で、強い再生能力を持ち、細胞・組織の分化や再生研究に適しています。このヒドラの生態と再生の様子を観察する展示会「ヒドラってどんな生き物？」を、11月12、13日の二日間、大阪市長居公園・花と緑と自然の情報センターにおいて実施しました。



通常の子ヒドラや再生途中の子ヒドラ、クロレラと共生し、光合成によって自活しているヒドラ、えさを食べる様子などを観察し、財団研究者と質疑応答しました。好天に恵まれ、2日間で約330名の親子づれが見学を訪れ、会場は、実体顕微鏡を使ってヒドラを直接観たときの子供たちの驚きの顔と歓声に溢れました。大人から、「細かく切っても元のヒドラになるのか」とか「寿命(老化)はあるのか」などの質問を受け、「細胞が200個あれば



元のヒドラになること」、そして「寿命についてはまだわかっていない」ことを答えました。

展示会場は人の波が途絶えることなく、子供から大人まで楽しみながら科学の不思議にふれてもらえました。こちらが思いもよらなかった質問もあり、対応は大変でしたが、ヒドラの観察を通じて、生命科学の分野で活動する財団研究者の研究に対する情熱や喜び、目的に向かって努力することの大切さや科学の面白さ・楽しさを子供達に伝えることができたと思っています。